

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 子どもと家族の看護学分野 科目コード: 230009 <b>子どもと家族の看護演習</b> Practicum : Child And Family Health Nursing						
担当教員		戸部浩美 千原 裕香 後藤 亜希 西 真理子				
実務経験						
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	演習	
必修・選択	選択	時間数	30			
該当ディプロマポリシー	(1)	◎	(2)	○	(3)	○
Keywords	エビデンスに基づく実践(EBP)、研究論文の批判的吟味、研究デザイン、妥当性・信頼性、子どもと家族への看護介入開発					
学習目的・目標	学習目的: 子どもと家族に関する援助方法や援助プログラム、実践に役に立つアセスメントの視点や考え方について扱った国内外の研究論文、事例報告等を精読し、近年の子どもと家族にまつわる健康課題および援助のあり方を考察するとともに、援助を工夫し改善していくことや新たな援助を開発していくプロセスについて学ぶ。 学習目標: 1) 研究論文を正しく理解できる。 (1) 研究論文における研究目的が問題意識や関連文献・先行研究の成果に裏付けられて導き出されていることがわかるとともに、その研究課題の意義を理解できる。 (2) 研究で扱っている現象や変数がわかる。 (3) その研究のデザイン、データ収集方法、分析方法が理解でき、その妥当性と信頼性について理解できる。 (4) 研究結果を読み取り、それがどのように解釈されているかがわかる。 (5) 研究結果と先行研究との比較を基に考察が展開されていることがわかる。 (6) 結論が研究結果とその考察から導き出されていることがわかり、その論理性や妥当性を理解できる。 2) 子どもと家族への看護援助/援助プログラムまたは実践に活用できるアセスメント視点や考え方について扱っている研究論文や事例報告等をまとめたり討論したりすることを通して、近年の子どもと家族にまつわる健康課題および看護援助のあり方を考察するとともに、援助を工夫し改善していくことや新たな援助を開発していくプロセスについて学ぶ。					
授業計画・内容						
回	内容			授業方法	担当	
1-2	看護研究過程の概観、概念枠組みと仮説、研究デザイン			プレゼン・討議・講義	戸部 千原	
3	研究計画書、データの収集、研究結果の活用			プレゼン・討議・講義	戸部 千原	
4-5	データの分析、統計解析			プレゼン・討議・講義	戸部 千原	
6-7	文献レビューに必要な予備知識、文献レビューの概要			プレゼン・討議・講義	戸部 千原	
8	文献レビューの進め方			プレゼン・討議・講義	戸部 千原	
9-10	量的な看護研究の進め方			プレゼン・討議・講義	戸部 千原	
11-12	質的な看護研究の進め方			プレゼン・討議・講義	戸部 千原 後藤 西	
13	新たな援助や援助プログラムを工夫し開発していくプロセス			プレゼン・討議・講義	戸部 千原 後藤 西	
14-15	子どもと家族への援助やアセスメントに関する文献検討 <b>【テーマ例】</b> ・子どもの病気・死の認識 ・子どものストレス・コーピング、防衛機制 ・プリパレーション、入院生活への適応を促すケア子どもへの健康教育、子どものセルフケア ・子どもの痛みの管理と看護ケア ・小児期を慢性疾患とともに生きる ・子どもと家族へのターミナルケア ・悲嘆と喪失およびグリーフケア ・障害児の福祉・教育、ノーマライゼーション ・発達障害、ソーシャルスキルトレーニング ・子育て支援(親への心理教育的支援、家事・育児の実質的サポートシステム等)、子どもの虐待 ・DV等の家庭内暴力 ・不登校など			プレゼン・討議・講義	戸部 千原 後藤 西	
教科書						
参考図書等		1. 南裕子, 野嶋佐由美 看護における研究 第2版、日本看護協会出版会、2021 2. 大木秀一 看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん、医歯薬出版株式会社、2020 3. 大木秀一 量的な看護研究のきほん、医歯薬出版株式会社、2015 4. 戈木クレイグヒル滋子 質的研究法ゼミナール グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ、医学書院、2013				
評価方法・基準		1. 出席状況・授業への参加状況 50% 2. プレゼンテーションおよびその資料 50%				
関連科目						
教員から学生へのメッセージ						